



ゴールを見据えて

学校長 小紫 達矢

1月25日(水)朝、辺り一面の銀世界。10年に1度の猛烈な寒波との報道がされていました。10年に1度の寒波ですので、小学校のほとんどの子どもたちにとって初めての経験だったと思います。私の三木小学校での勤務は計13年になりますが、雪でここまで運動場が雪で覆われたのを見たのは初めてです。当日は、職員も通常の通勤が困難な者が少なからずおり、電車を利用したり通常の出勤時刻より遅くなったりしていました。保護者の皆様も出勤でご苦労された方も多かったのではないのでしょうか。

ホームページでも紹介しましたが、当日朝の活動の後、運動場で遊べる時間を設定しました。少々1時間目に食い込んでしまいましたが、何人かの子どもたちに感想を聞くとロクに「楽しかった」と話してくれました。三木市ではなかなか見ることでできないさらさらのパウダースノー、子どもたちにとって貴重な体験の一つになったのではないかと思います。



【教師と遊ぶ子どもたち】

さて、「一月(いちげつ)往(い)ぬる二月(にげつ)逃(に)げる三月(さんげつ)去(さ)る」という言葉があります。正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを、調子よくいった言葉です。特に学校現場だけで言われている言葉ではありませんが、学校で勤務していると1月から3月の3学期は本当にはやく過ぎていくように感じる人が多いです。明日から2月です。子どもたちにも3月の今の学年の終わりを少しずつ意識し始める時期になってきていると思います。

話は変わりますが、保護者の皆様は、ご自身が学校のプールで初めて25mを泳ぎ切った時のことを覚えておられるでしょうか？ 私が初めて25mを泳げたのは3年生の時でした。その当時水泳学習が1学期だけでなく2学期にもあり、地区水泳も夏休み中に行われていました。1学期には何度挑戦しても25mは泳げず、夏休みの地区水泳にできるだけ参加して練習を繰り返しました。2学期になり25mを泳ぐことになりましたが、半分くらいで苦しくなり立ちたい気持ちになってきました。そうしているうちに、ゴールであるプールの壁が見えてきた瞬間、不思議に力が湧いて一気に泳ぎ切ることができました。みきっ子マラソンでも、ゴールの手前になると別人のようにラストスパートをする子どもが沢山います。ゴールが見えるようになることはやる気が出たり、気持ちが強くなったりする効果があるそうです。

今の学年のゴール(終わり)を子どもたちが意識し始めるようになったこの時期こそ、子どもたちの気持ちを大切に学年のまとめを行うことが大切です。私たち教職員は、子どもたちがしっかりと今の学年のゴールに到達し、自信をもって新しい学年を迎えたり中学校に進学したりできるよう支援して参ります。保護者の皆様には、引き続き、温かいご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。